

昭和13年8月1日（月）

午後五時過ぎより、次第に西方より霽れ、風も北に変わる。三時、簗島局に至り年金を三回分受取る。拾貳円。増田すい子に手紙、大内田信一に葉書認め、発送す。夕方素麺頂く。久子賞与、及び森永十五年記念の賞与もあり。余分の手当、四十五円を得たり。気温低し。

昭和13年8月2日（火）

曇り。北風、依然強し。愛媛県、大阪府等、洪水汽車不通箇所多し。澄子に理髪し貰ふ。驟雨模様あり。夕食後髯剃る。澄子にも依頼す。此夜久子帰宅遅く、余早く寝る。森永屑菓子を求め来る約束なりし。明日定休日の由なり。依然風冷たし。

昭和13年8月3日（水）

朝森永菓子澄子も注文せし由にて、澄子に二十銭分、余に十銭分呉る。余澄子に談じ交換せしむ。朝餉パンを食して、七時二十分頃出発。駅売店にて鉄道時刻表10、新聞6求め乗車。中津に至るまで曇天、途中驟雨あり。車窓に雨滴点々、定刻着。午後より次第に霽れる。五時頃には快晴となる。代引き小包不着の旨、差出人より照会あり。賀来時計店を本町に訪ふ。更に警察に至りしも、伊東刑事、午後四時頃でなければ販らぬと云ふ。更に帰宅の際訪ねしに、未だ帰り居らず。委細、他の係員に咄して販る。此日鶴居長来局、保険募集員の話あり。一つ松に傭いし、一日で十七件を得たりと。目下栄町局を加勢し居ると云ふ。手当十割天引き交付、而して短期消滅は、第二回の二割分を局長負担とすることになると云ふ。恰度六月分3, 62到着に付き、半額を永江氏に交付する

こととし発令せり。

昭和13年8月4日（木）

快晴、大暑。第一生命より発送せし加員振替用紙を代用したる件、下関振替より照会あり。此の朝、豊後町に同事務所を訪ふ。主人出征不在。募集員多数ありと云ふ、不得要領出局す。四時五十分飯宅の途に就く。巖、既に帰り居たり。子供等に行水を遣らせ呉る。此日、栄町局にて募集に従事中の募集員来たり。これから下郷に行く処なりと云ふ。別に約束もせざりし。市内は募集の成果期待し得ずと述懐し居たり。一つ松の成績は、市街の加入率少なき向きに対し働きかけし関係に因ると思料さる。終日灼熱の気温続く。午後九時、珍しく早く床展ぶ。

昭和13年8月5日（金）

朝快晴、十時頃より次第に曇る。切手葉書請求。巖に運搬方、葉書通知す。昨日余に頼むを失念せる由。今日は旧暦七月十日、午後四時五十分頃帰る。巖飯ったばかりだと云ふ。和服着用して玄関に出発を暗示して居る。夕飯時、使い来る。巖が飯ってから、食べると待つ間もなく巖飯る。即ち夕飯の膳に向かう。局に誰も居らず。窓より中に放り込み帰れりと云ふ。

昭和13年8月6日（土）

昨の曇天に引換え、朝来快晴。局に到着する迄に汗出づ。毎朝、水にて半身を洗ふ習慣を馴致（じゅんち）す。朝より牛乳持来しあり。公報により訂正ものをなし、午後一時二十分出発す。回数券、此の一回にて終了。午後五時に五分前着。山崎氏より、六時半まで自宅に来たれと

葉書あり。夕食後、髯剃りバスにて住吉神社前下車。急いで同氏邸に至れば、山崎氏玄関に居り、何れにか赴く気配なり。同氏、松尾氏と相談し、柳原先生邸に早く行き、先生の意見に任せたる方よからんとあり。それ故、これから先生邸に赴く積もりと云ふ。乃ち一緒に行く。先生夕飯中、別邸に待つ間もなく松尾氏も来らる。四人にて協議、桑原氏に拾円やることとなる。猶先生にも五円贈る。志波氏来たり、島井氏店員も見ゆ。桑原氏遅れて来らる。猶此日、桑原氏の提案と称する不用品納筈を市内に設置することは、誰も容れて呉れる人なからん、仮令（たとい）ありとするも、募集は桑原氏に依頼することとならんも、其の煩に堪えざらん。第一設置場所も警察の許可を得たる上、更に個人の軒下なれば、其の家主の承諾をも要すべく、場合によりては承諾せざるやも知れず。夫れよりは、光友会員のみにて会合当日一品ずつ持寄ることとせば、実行の可能性ありと云ふことに一決せり。猶、不出席会員の通達会費を督促することの案を可決し、それを余に托鉢せよと山崎提議す。住所判明せば、余托鉢し支へなきも、一先ず桑原氏に相談したるに、同氏托鉢すと謂はれ任せたり。先生の今日の話、詢（まこと）に我意を得たり。謙虚な素直な心を以て人の話を是認し、優逸感を抱かざることと云ふにあり。西式健康法の講演が明日開催さるるとかにて、西式の熱心なる女性見て居り。其の功德を讃えらる。先生、之を山崎氏に勧めらる。同氏近来痩せ衰えたるを気に病み居らるる為、勧められたるなり。自らは其の必要を感じられたるにあらざる如し。十一時眠る。水浴十二時寢床。此日志波、島井両氏より会費頂き、松尾氏に、先生謝礼五円立替分

より返済す。残一円あり。

昭和13年8月7日（日）

晴れ、風強し。中尾氏に手紙書く。午後より、道子澄子外出。四時近く帰宅。久子十一時出発。此日、余外出せず。澄子トマト求め来る。夕方更に水浴びたり。猫仔を産み、三匹の内二匹棄て去ると云ふ。夜、澄子の床の中に親子して寝て居る。早く九時頃、敷き布団なしに蓐蓐のみにて寝る。蓋し西式なり。

昭和13年8月8日（月）

久子朝早し。台風の虞（おそれ）、各測候、警戒網を張り居たるも、支那海に方向転換したりと。午後より簗島局に、残一円貯金せり。序でにバスにて一区、新柳町市場を一巡、神芝を三銭求め販る。本日より立秋に入る。中央气象台の観測に依れば、今後の暑気は本格的に土用に復帰すとあり。此の夜の暑さは確かに夫れらしかりし。夕方更に水浴び。午後九時過ぎ寢床。

昭和13年8月9日（火）

暑気強し、従来になき熱さなり。松木、岡田、上原三氏に手紙及び葉書発送。早田泉治氏宛て封緘葉書発送、住所の通知を求む。道子活動に、四時販る。トマト求め来る。活動行きは、久子が持来たりし優待券に依ると。此夜、風なく熱さ甚だし。安眠を妨ぐ。十時寢床。

昭和13年8月10日（水）

昨七時半、博多駅に至り回数券を求む。21、60、通行税25、計21、85。今日はバス及び電車にて駅に至り、

新聞紙を求めたり。定時着、積滞の仕事を捌く。五時少し前出発。此夕、巖、姉やを連れ活動に行く。和博を連れる。悦子取残され号泣す。余神社に連れ行く。鳩に餌を与ふ。境内に売店五六あり。盆の人出を当て込みしなるべし。十時巖等飯る。黒田誠忠録は一ヶ月前、福岡にて看板を觀たり。十時半寢床。

昭和13年8月11日（木）

朝割合涼し。出局して汗出でず。珍しく上半身洗はず。是永氏十時出勤。其の間永江氏担務便覧、例規類纂、加除訂正を了す。裏の方より涼風来たり凌ぎ良し。暑熱強し。午後五時帰宅。不用書類整理に着手。

昭和13年8月12日（金）

巖恰度局に来る。葉書今日取運び方、永江氏より依頼あり。午後より運び呉る椅子のこと委託。持行く料金、三十拾錢位と云ふ。引続き書類整理す。

昭和13年8月13日（土）

巖椅子持参せり。明日、日曜日なるも出勤。郵便窓口受付の衝に当たるべきに付き、局員に休暇を取るべく勧む。物品整理の為、五時帰る。

昭和13年8月14日（日）

馴れぬ事故、面喰らふ。永江氏に尋ね処理す。朝鮮行き小包を内地普通料十四錢をとり、後にて発見し、余三十一錢弁償す。正午後、受付出来ぬを気付かず受付。取集小包便なきを以て、掩留（えんりゅう）となる惧れあり。十五日受付のこととし弥縫（びほう）せり。午後

五時四十分帰宅。夫れまで不用書類整理す。御手洗氏一昨日夜、来宅の筈予告せり。待心地し居りたるも、遂に来たらず。昨夜も亦見えず。下村君来局。今度退職して熊本に販ることになれりと云ふ。放送局に採用さるるらし。余の販るを待ち居たるらし。ぼた餅食ふ。

昭和13年8月15日（月）

風相当あるも、表の街路より塵埃と共に吹込み何もかも砂ばかり。然も熱開、流汗淋漓たり。昨、大掃除やることと思ひ居たるに此事なし。2, 76銭、慰安費交付。永江氏に渡す。写真撮るらし。此日、下村民雄氏小自動車にて挨拶廻り、局にも立寄る。

昭和13年8月16日（火）

此朝、七時三十四分発にて熊本に行く由にて、出発を見送るべく六時五十分家を出づ。一旦局に至る、誰も居らず。帽子を措いて駅に行けば永江氏居り、余の行けるに気付かぬらし。余より挨拶して初めて知る。下村君、間もなく来たり。餞別一円贈呈。見送り人多し、局長以下二十余。恰度、鶴居国防婦人会員多数、出征歓送と混淆し万歳を送る。販り、其の儘出勤。永江氏宅にては、子供が毎朝ラジオ体操に出席するを以て、割合早起するらし。永江氏切手請求に行き、資金請求に余行き、序でに庶務に立寄り、上原中島両氏に会し、下村君の転勤不可能の事情を質す。中島君。相当斡旋したるらしきも成功せざりし如し。放送局入り決定と共に退職したるものと云ふ。道路電話工事にて、通行困難の箇所あり。五時帰る。第一生命八銭、弁償し処理す。不用書類整理、未だし。午後九時十分、床を展べ十時寢床。

昭和13年8月17日（水）

五分钟前出発、可なり熱し。今朝出血、胃腸障碍と認む。満州便覧訂正。為替貯金事故通知は、余の受持に変更す。仕事倍加す。午後一時二十分出発。小倉乗換えてより、中尾氏手紙を見る。五時に八分程剩ましたり。鯛あり。髯剃り七時半出発。先生、八時三十分頃見ゆ。出発近く来客ありしと云ふ。桑原氏より話あり。表裏一体、自他一如に就き。処が井上氏より質問出て、先生自己の抱負を述べらる。十一時十分閉会。辞去したるは同三十分なり。自宅に帰り水浴。久子友達伊田より三人連込み、余下に寝る、0時30分。

昭和13年8月18日（木）

此朝、久子友達を連れ出掛く。休暇を貰ひたりと。澄子に代引き、4,60受取らす前に、会費3,95銭を貯金せしむ。小包は南小路局に廻送しあるを気付く。再び同局に赴かしむ。書籍は六冊。人生私語60、貞心と千代と蓮月60、煩思録講話90、地敷を破って100、黙示録講話、平家物語各50、計4,10。小包料45、代引き5、計4,60及び前納戸数刷り4,72。余の手許より差出す。風南甚だ強し。蒲団毛布等に害虫発生。澄子採取乾かす。昨、嘗て飯塚にて一緒に居りしことある狩野利一郎君に、墓前四辻にて会す。余の裏合わせに居るらし。盆会にて帰宅し居れる由なり。久子、夕方食事前帰宅。澄子押入掃除。

昭和13年8月19日（金）

久子十時出発。早田泉治氏より住所通報なき為、品物黒

潮三箇久子に托す。放送局に同人を訪ひ、手交し呉るる様依頼す。長持ちの蓋間隙を紙（読書新聞よりの包み紙）にて目張りす。澄子も手伝ふ。北の方雷鳴、驟雨の模様。三時頃多少降る。静江氏より静子（すずこ）贈り越せる由。四五日前のことなるべし。早田氏より葉書礼状来る。夕食素麺。大森味噌作る。夜半、風強く南戸を鎖す。

昭和13年8月20日（土）

朝の間、多少の雲。午前中三好氏の母堂、他の婦人と来邸。三十分計りして皈らる。道子澄子外出。余の留守居中、再び母堂来られ、先刻の老婦の息、第一銀行出勤29の為に、道子を見に来られしなり。此日、是非来て呉れとのこと。午後七時半頃、伺ふべしと約し、三時過ぎ道子等帰りしを機に、其の事を咄し午後七時より出発。バスに一区、電車一区、昭和通り下車。急行電車道を過ぎ、左側洋服屋の隣り。三好君表に出て注視し居る。曩の老婦と其の息とあり。三好氏と久闊を叙し三十分間話し、老婦其の息と皈らる。八時を過ぎ辞去。電車二区にて達す。八時十五分、山崎氏福永氏等あり。まこと誌により御話あり。十時半退散、福永氏と皈る。山崎氏、明朝皿山神社清掃の由。先生宅に一泊。十一時帰れば久子活動に行きしか、此時帰り夕食を済ます。余水浴。十二時近く寢床。此日、箒（ほうき）80銭にて求め来る。押入の中に納むることとせり。午後三時頃より驟雨。五時頃歇む。

昭和13年8月21日（日）

朝より曇り。午後より雷鳴、少雨あり。風涼し。朝、三好母堂来邸。道子面接を申出づ。中学丈けにては問題に



せざる如く、余に云ふ。澄子まで余に云為す。爰（ここ）に於いて余の気持を述べ、反省を求む。道子乃ち相手に面接を決意。午後出発、余の家に誘致することを申出づ。母堂氏は此日、夕方であれば戻らぬ由なり。此夜早く寝る積もりにて蚊帳を吊りたる時、三好氏母堂見ふ。大急ぎにて片付けたり。相手の婿さん、三好氏妻女、母堂の三人連れなり。余と母堂と話す間、三好氏妻君、下に降り道子と折衝さる。少時して道子、婿さん、妻女と連立ち外出。半時再び婿さん余の部屋に来る。此の時初めて同氏と話を交ふ。間もなく一同帰らる。余送りて戸外に出づれば、道子も来たりバス道まで送らんと云ふ。余、乃ち戻る。床を展べ蚊帳に入る。道子来たり。何等の趣味を持たぬ人物にて、感心せざる如き口吻なり。余敢えて可否を謂はず。十時半眠る。

昭和13年8月22日（月）

久子より森永屑菓子30を三袋くれ、之は局員に土産とす。仙台よりの静子は巖へ。蚊遣り香25と、歯磨きの有合わせを幾分持参。七時二十分発、徒歩。七時五十分着。新聞4求む。五時帰宅、予期せざりしものの如し。ビスケの土産品は各局員に分配。静子は巖に遣る。

昭和13年8月23日（火）

晴れ、朝は大分涼しくなる。此日午後、不用物品整理を了し申請書提出す。巖に椅子修理済みを持ち来さしむ。60銭遣る。ラジオ電撃の為、不通となりしを修理方委託す。巖運び呉る。後刻持参、一円払ふ。恰度四時半頃とて、放送なく調節可否不明の儘、帰宅。午後二時竹折君臨局。戦地に志願せしも目的を達せず、如何にせば可

なるやを尋ねらる。二時間居る。四時近く退局。その為仕事遅れたり。午後五時帰宅。流行シャツを濡らす。枕、木のものを愛子より借りる。西式健康法に付いて話したる為、花嫁枕を取出せしものなり。食物に注意し初む。

昭和13年8月24日（水）

朝涼し。ラジオ完成よく調節しあり。巖八円余、納税切符来たりしとて苦説く。巖、魚釣りに午後より海岸に行き、鯊（はぜ）二十尾程釣り来る。雑魚沢山貰ひ来たり、天プラにせよと云ふ。生きが悪いとかにて、天プラにせず棄てたるらし。新鮮の分を串指しとし焼きたり。不用式紙書類の片附きたるも、訂正もの等山積み、相当多忙なり。中尾氏の手紙受取りしも、読む機会なし。

昭和13年8月25日（木）

悦子下痢。局にては忙しく立働き、午後五時帰る。ヒマシ油遣るやう注意。此の夕方広美来訪。夕食未済の由にて、七時半頃食す。従軍の希望にて斡旋方依頼の為なり。十一時過ぎまで色々話し寝床。此日も巖、大汐を利し海に行き、蟹多数を捕獲し煮て食す。広美にも振舞ふ。余は一尾食したるに止まり、巖は可なり多くを喰す。後、腹痛かりしと云ふ。

昭和13年8月26日（金）

朝より広美、巖と外出。後、海に行き貝など拾ひ蟹をも捉え来たりたる由。給料交付。例に依り拾円、巖に遣る。五時半帰る。警察関係小包、当局引受なき件に対し結了せしむ。悦子下痢止まり、食物を要求す。夕食ライスカレー、夫れを食べさせぬとて叫号す。愛子負うて守す。

余、代わりて負うて外出。神社を経て帰る。途中腹痛を訴ふ。販りて寝かす。熱は無し。昨日までは可なり高かりし。販宅後は別に腹痛を訴ふこともなし。九時二十分床展べ、十時寢床。

昭和13年8月27日（土）

午前二時頃より風雨多く、戸を叩く音頻り、台風至るの感あり。女中の寝て居る雨戸を叩く風雨に、蚊帳や衣装を濡らすを患ひ、注意せんかと余程気を揉みたるも、其の内、巖か愛子起き来たり雨戸を締むる音す。然るに朝起き見れば、自分の雨戸の方に雨入り、女中の方は一向雨の侵入を見ざる如し。広美は七時近く起床。朝食と一緒に済まし、八時五分前に余と出発。昨夜巖と広美座り角力をやる。飯塚では角力や撃剣やバレーボール等の競技会にて、土俵開きを本格的に挙行せんと云ふ。局に半時間程居り、八時五十二分発列にて広美出発。行橋よりバス無料にて飯塚に行く由。夏着持ち来る。雨、時に降る。出発当時も降雨。是永さん駅まで送り、傘を持ち戻らんと出掛けられたるも、序でに傘も持参すべしとて折角出掛けられたるも断りたり。定時より三分程遅れて列車到着。小倉より乗換え、中尾氏書面を見て、一二分遅れて列車は博多駅に着。出発しかけし電車に飛び乗り、五時二十分前到着。水浴、夕食を喫す。

昭和13年8月28日（日）

朝快晴。禪洗濯、一時間計りにて乾燥す。午後二時半頃より山崎氏邸に至る。恰度、氏胃壊瘍にて二十四日夜半大出血、従来面会謝絶。二十七日まで絶食。本日漸く重湯に胡麻を磨り潰したるを加ひ、百グラムに制限されあり

と、夫人の氣転で余り永く喋舌を弄し居たる為、お茶を別室にて案内され、成程と思ひて其の儘辞去す。金拾円立替金返戻す。西式強健術リーフレット貰ひ来る。風呂屋の附近にて雷鳴、大降りとなる。山崎邸を辞するや、三好氏に行く。市場にて何か求めんとしたるも、林檎の如き一ヶ拾錢とあり。一層現金可なりと、二円状袋に納め謝礼す。母堂近所に行かれ、留守三好氏夫婦のみ居らる。其の内迎えに行き母堂も来らる。先日の好意を謝し包物を置いて帰る。雷鳴、黒雲叢立。電車にて南新町まで、夫れより徒歩。途中バスに逢ふ、悠然と来る。家盡くる頃、遂に大降りとなる。軒下に佇立す。細雨風に翳られ衣袂を濡らす。猿又の上まで捲上げたるも、足袋は土に塗る。待つこと三十分、雲漸く霽れる。家まで来る間に二ヶ処の水溜まりあり。何れも三四寸、家の入り口近く一番広い範囲に渉る。早速足袋を洗って貰ひ、着物を乾燥せしむ。水浴、夕餉。六時久子来たり。水汲み来たり数杯傾く。

昭和13年8月29日（月）

曇天。東野主事に手紙書く、広美に頼まれし用件を果たす為なり。第一生命より二郎払込金通知あり。昨年より多額に付き照会す。中尾氏にも返事出す。中津巖宅近所、龍王町に闇無神社あり。二基の石碑恰も鳥居の如く聳立（しょうりつ）す。其の左の碑文に曰く「政寛刑省民樂無虞」。而して其の右碑に「暘若雨時田大有年」（六月三十日、日誌参照）。「大有年」とは大豊穰を云ふ。故に晴天の後には雨天と順当に終止すれば、田畑は大豊穰なりと云ふ意と覚ゆ。曇天の儘、終始す。昨夜非常の雨、此日は余り降らず。

昭和13年8月30日（火）

曇り、時に晴れ。朝早く久子出発。夜は十時に至るも眠らず。活動にでも行きしものの如し。何れにも外出せず。新聞及び本を読む。明日の準備をなす。但し別に土産品なし。

昭和13年8月31日（水）

朝より晴れ。長靴と和傘を、是は聊か体裁悪し。朝餉遅れ、出発も七時四十分となる。大急ぎにて徒歩、定時五分前着す。新聞を求む。十一時三十五分、入営兵の為、各駅共混雑す。永江氏切手請求。停滞の仕事を片付けたり。第一生命立替八銭、守谷氏より受取る。此日小倉にて一つ松局長、福岡より販宅に逢ふ。愛妻重病、大学病院に入院中。局員も病氣長期欠勤、栄町長加勢し居ると云ふ。明朝、守谷氏令兄大分聯隊に入営の由。五時帰る。計算違算、五時三十分眠る途中まで。姉や迎えに来る。麻生局長臨局。